

まんまるはーと月形町



月形町

年末年始号

旬の新鮮情報



12月のこよみ

- 23日【天皇誕生日】
- 31日【年越し】

1月のこよみ

(大) 師走 (しわす)
すべてのことを「為果す」月です

(大) 睦月 (むつき)
むつきあう、こましくするという意味で、すべてのものが気持ちを寄せ合って新しい年を迎える月です。

- 1日【元旦】年賀・初詣
- 6日【小寒】寒気がだんだん強くなる
- 7日【七草】七草を入れたお粥を食べる
- 11日【成人式】
- 【鏡開き】お供えした鏡モチを割って食べる
- 21日【大寒】ひどく寒いとき

12月の行事

- 12日 ・農事組合長会議
- 19日~20日 ・内部審査
- 19日~27日 ・定期監査
- 25日 ・第11回理事会

2008年1月の行事予定

- 5日 ・役職員新年交礼会
- 10日~11日 ・内部審査

新年のご挨拶

代表理事組合長

柴田 悟



新年明けましておめでとございます。組合員の皆様には、ご家族お揃いで新年をお迎えられ心よりお慶び申し上げます。

日頃よりJAの事業運営に対しご支援ご協力を賜りお礼申し上げます。

昨年は、近年にない暖冬少雪で融雪も早まり春耕期作業が順調に推移し、麦の生育においては冬損被害もなく質・量ともに好結果となりました。一方その他の作物においては、六月に入ってから日照過多、更には少雨による干ばつ傾向となり花き・果菜・南瓜等においては、当初計画よりも前進出荷が影響し出荷数量では、前年比で微増となりましたが、価格においては、残念な結果となっております。また、米においては、七月か

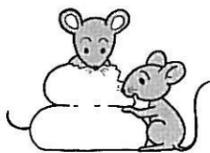
ら八月上旬にかけての低温・日照不足の影響を受け、作況指数九十四(南空知)の「不良」となり収量・品質ともに前年を下回る残念な結果となっております。十九年度から導入となった品目横断的経営安定対策での政策的な減収や地球温暖化の影響もあるのか気象変動が大きくなり、組合員はもとよりJAにおいても大変厳しい年となりました。この様な状況を踏まえ昨年末からJAグループとして、一、生産調整の実効確保対策、二、生産調整を実施する担い手の経営所得安定対策の確立、三、生産条件不利補正交付金(緑ゲタ)

における手取り水準の確保などを含め「万全な財源確保」を求め政府与党の国会議員への要請活動を全国展開しております。担い手認定農業者を始め専業農家が再生産でき将来希望の持てる農業経営が出来るよう政策支援を強く願うところであります。

農畜産物総じて消費の減少と輸入増加等の影響で価格浮揚に繋がらず厳しい環境が続いております。特に米においては、需給と価格の安定を資するには、生産者・農業団体が生産調整を確実に取り組む事が不可欠と考えます。二十年産米の全国需要量目標配分が府県の過剰作付分、需要量の減少要素を含めた八百十五万tが示されました。北海道には、五九八九百t(前年比▲1・一五%)が配分となり、市町村別需要量配分は年末になる予定となっておりますが、作付面積の確保に対しご理解とご協力をお願いします。

農業を取り巻く環境は、原油価格、生産資材等の高騰を始め

WTO・EPA交渉の行方など厳しい状況にありますが、JAとしての役割を果たすべく役員一体となって努力して参りますのでご協力をお願いします。



代表理事組合長	柴田 悟
副組合長	東出 幸男
理事	石川 寛
	本居 哲夫
	土田 寿幸
	明田 修一
	山本 博幸
代表 監事	楠 順一
監事	与佐岡 登
員外 監事	宮島 将彰
使用人兼務理事	村瀬 昇
参事	
使用人兼務理事	佐藤 良幸
金融部長	

新年にあたり

北海道農業協同組合中央会

会長 宮田 勇



謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年の北海道農業は、春先からの天候不順で、出来秋が心配されておりましたが、その後は、好天に恵まれ地域差はあるものの全体的には総じて良好に推移しました。しかし本道の米の作況指数は九八となり、さらに府県の過剰作付けに起因する米価格の下落とあいまって稲作経営は一層厳しさを増しました。また、畑作経営においては昨年度から導入された品目横断的経営安定対策では農家手取り水準が減少傾向を示し、酪農経営では飼料価格の上昇が経営コストを押し上げたほか、急激な原油価格の高騰を背景とした生産資材価格の上昇が追いうちをかけ、全道の農家経済は危機的な状況を招いております。このため、

JAグループ北海道といたしましては、生産者の所得確保対策と経営安定を図るための取組を展開した結果、米については昨年三十四万トンの緊急対策と担い手対策などが打ち出され、今後の価格浮揚など効果が期待されるところであります。

また、品目横断的経営安定対策につきましては、生産現場からの様々な課題提起を踏まえ、特に小麦の緑ゲタについては、近年の生産性向上努力を反映した単価水準とするよう見直しを強く求めてきた結果、昨年十二月の予算折衝にあわせ、補正予算による一定の方向が示されたところであります。

WTO農業交渉につきましては、昨年七月に提示された農業

交渉議長によるモダリティ案に基づき交渉が重ねられてきましたが、依然主張に大きな隔たりがあることから交渉の推移は大幅に遅れている状況にあります。また、日豪EPA交渉については、昨年四月より交渉がスタートし、すでに三回の会合が開催されており予断を許さない状況にあります。WTO農業交渉、日豪EPA交渉如何によつては、本道農業に壊滅的な打撃を与え、ることから、JAグループ北海道といたしましては、今後とも重要品目の関税撤廃の例外化の確保にむけて引き続き経済・商工・消費者団体など関係団体との連携を強化し、街頭宣伝行動など粘り強い運動を継続してまいりる所存であります。

次にJAの経営問題につきましては、規制改革会議等においてはJA問題が引き続き大きなテーマとされており、JAの自己責任に基づく経営の健全化を図り、JA合併を中心に強靱な経営基盤を確立することが重要であり、「第二十五回JA北海

道大会」で決議した協同活動の実践に積極的に取り組んでまいります。これまでの社会はひたすら物質的豊かさを追い求め、その結果、経済効率、企業優先の社会となり資源や環境の破壊をもたらしてきました。しかし環境や資源、安全などが重視されるようになり農業、JAに対する期待が高まっています。

時代は「競争」から「共生」の社会へと確実に変化しています。いまこそ「一人は万人のために、万人は一人のために」という協同組合の理念を全員が意識し「共生の世紀づくり」にまい進しようではありませんか。JAグループ北海道は組合員、JA、地域住民の期待と信頼に応えるためこれからも全力で取り組むこととあわせ、今後ともJAに対する道民の理解を深める広報活動を一層強めてまいります。最後に、本年も災害がなく豊稔の出来秋を迎える事ができますよう心からご祈念申し上げます。新年のご挨拶と致します。

韓国視察研修に参加して

月形町農民連盟
書記長 津坂佳史
書記次長 田島豊

この度、月形町農民連盟より津坂・田島が空知農民連合主催による韓国視察研修に参加致しましたので報告致します。

平成十九年度の空知農民連合の書記長・次長・事務局研修を、各市町村農民協議会から四十四名が参加し、宮越空知農民連合書記長を代表として、十月三十一日から十一月三日までの三泊四日の日程で韓国のソウル市で実施されました。

二日目の午前中は市内の史跡を見学しました。午後は今回の研修である、韓国の農民団体「全国農民会総連盟」を訪問し、現在の農業情勢の説明を受けた後、質疑応答を交わしました。あわせて、韓国最大の公営卸売市場である「可楽洞農水産物卸売市場」の見学を行いました。視察先の概要は次の通りです。

○全国農民会総連盟との懇談
全国農民会総連盟(以下全農)利益保護を目指し結成された韓国で、韓国市内に一〇五の支部を持

ち(ソウル市内に九つの党本部がある)、約五万人の会員を持つ団体であり、多くの団体を統合し一九九〇年に結成された団体である。

九〇年代以降は農産物の価格競争を主流においた運動を行い、メキシコのカンクンでの行動や、二〇〇五年に香港で行われた反WTOデモでも中心となっていた団体でもある。

また偶然にも、二〇〇五年十一月に、米政策危機を訴え本組織で行った農水産省前の座り込み運動に、応援に駆けつけてくれた韓国の農民団体があつたが、それがこの団体であった。十一月十一日には米国とのFTA協定を反対し、十万人規模の集会を予定している忙しい最中であつたが、代表の方や政策局長、事務局長に親切に対応してもらい、韓国の農業情勢や農民運動の内容などを一時間にわたって説明いただき、その後本組織からも積極的に質問を行った。

冒頭、宮越書記長からお礼の挨拶と本組織の紹介を行った後、全農からの説明が行われた。韓国農業の情勢について「韓国農業も日本と同様の問題を抱えており、一九八〇年代七〇〇万人いた農業者も所得減収等を理由に現在三三〇万人程度に減少しており、全農民の六十%が六十五歳以上、食糧の自給率も二十五%しかない。この様な状況にある中、現在韓国政府は米国とFTA協定に向けて進んでおり、これが締結されると韓国の農業・農民の三十%以上が崩壊してしまうことになる。反WTO、反FTAに向けて現在最も力を入

れて運動を行っている所であり(また日本のニュースでも報道しているが)、一般国民に理解を求めるため国民を巻き込んだデモを頻繁に行い、十一月十一日にも十万人規模のデモを予定している。また「反WTO行動ばかりが目立っているが、国内の所得補償対策にも力を入れており、農民の所得確保に向けて政府に対しても運動を行っている」韓国の所得補償制度の内容に対する質問には、「米作

民の立場としては決して十分なものではなく、満足はいく額ではない」

また日本同様自給率の低い状況に、

「韓国政府は食料は輸入すればよい、お金があれば何でも買える」という考えを持っている」と危惧していた。

運動資金についての質問には「一〇五の支部団体から会費という形で資金を徴収し、後は他団体からの援助や、個人献金で補っている(金額については内緒とのこと)。ただ常に資金難であり、スタッフにはボランティアも多い」。また「資金を稼ぐため、ガソリンスタ



ンドの運営も行っており、お盆や正月には街頭で農産物の販売等も行い資金を稼いでいる」とのこと。政治活動についての質問には、自分たちの意志を通すため、国会議員を送り込むことを積極的に行っている。ただ、韓国の農民は保守的な人が多く、農民団体が政界に進出することは、相当難しいらしい。

最後に政策局長から、「韓国も日本も農業のおかれていた立場は一緒だとわかった。全農民のためお互い力を合わせて頑張りました。う」硬い握手を交わし終了した。

○可楽洞農産水産物卸売市場視察
一九八五年六月十九日、韓国最大の公営卸売市場として開場しました。

◆概要
敷地：一六四三九三坪 (五四三四五一㎡)

- ・建物：八五〇五六坪(二八一七九㎡)
- ・建設費：九三三億ウォン
- ・駐車場：四三九〇三坪(一四五二三五㎡)、同時駐車能力↓五三一九台
- ・取扱品目：果実、野菜
鮮魚、活魚、貝類、干物
肉類(牛肉、豚肉)

- ・取引物流：七五三九トン/日
- ・取引金額：一一三億ウォン/日
- ・利用人員：約一三万九千人/日
- ・出入庫：約四万一千台/日
- ◆沿革
一九八二・四 建設工事着工



三日目は板門店を見学しました。専門のガイドに交代して、国連軍の兵士の運転にて見学です。非武装地帯なので、韓

- ・一九八四・四 農水産物工事設立
- ・一九八五・六 可楽市場(青果・水産)開場
- ・一九八六・六 畜産市場開場
- ・一九九二・八 良才洞穀物卸売り市場引受運営
- ・二〇〇四・二 江西農産物卸売り市場開場

市場を管理するのは「農水産物公社」です。「農水産物公社」はソウル特別市が全額出資して設立した地方企業体で、可楽市場と江西卸売り市場、穀物卸売り市場を管理・運営しています。競売及び入札方法は、セリ方式と電子式の両方を採用した上場競売を原則としていますが、上場例外取り引きも採用して運営しています。東京の「大田市場」をモデルにしているそうです。今年キムチを作る上で最も重要な白菜が例年より高値で推移しているそうです。魚貝類では生食(躍り食い?)用のイイダコが特に目を引きました。

また、非武装地帯という特殊事情により農家所得に対して非課税だそうです。各戸一〇〇万円前後の、若しくはそれ以上の粗収入が有るらしく、生活水準は国内の他の農家より相当高いそうです。以上

最後に、韓国は食べ物辛い、との話でしたが、思っていたほど辛くなく、そんなに口に合わないものもなく、結構日本人向けになっていたのかもしれない。そんなこんなで、有意義な三泊四日の研修でした。

ご支援頂きました各関係団体の皆様や盟友の皆様に感謝申し上げます。

WTO・EPA つぼの壺

● WTO農業交渉 ● ～世界の農業者の声を届けよう～

WTO農業交渉は、G4閣僚会議が決裂したとはいえ、本年夏までの農業モダリティの確立に向け、予断できない状況が続いています。今回は、6月11日・12日にJAグループが都内で実施したアピール行動や世界の農業団体との共同宣言について紹介いたします。

WTO農業交渉は、6月21日、交渉の大きな節目になると見られていたG4閣僚会議が決裂しましたが、ファルコナー農業交渉議長は、6月末頃を目途にモダリティ案を提示するとの姿勢を崩しておらず、7月末までの農業モダリティの確立、本年中の全分野での交渉妥結に向けて、交渉は全く予断を許さない状況にあります。こうした緊迫した情勢のもと、JAグループを含む世界54ヶ国・91の農業団体が、世界各国の“多様な農業の共存”ができる農業モダリティの確立を求める共同宣言を発表しました。またJAグループが6月12日に開催したWTO・日豪EPA・基本農政確立対策全国大会にはWTOに関して連携しているCOPA（EU農業団体連合会）の副会長も駆けつけ、大会参加者によるデモにも参加しました。さらに、大会前の11日には、JA全青協の協力のもと、銀座などでトラクターデモや街頭宣伝活動など、わが国農業の大切さを訴えるアピール行動を実施しました。公平で公正な貿易ルールづくりがなされるよう、世界の農業者とともに声を一つにして各国政府等に対して、より一層強力な働きかけを行なうことが重要です。

トラクターデモ（築地～銀座～東京）



6月12日に日比谷野外音楽堂で開催された大会にあわせて、6月11日・12日に都内で日本農業のアピール行動を実施！

デモによるアピール（霞ヶ関～永田町）



世界54カ国の農業団体による共同宣言（抜粋）

現在貿易交渉は、少数の農産物大輸出国の利益に支配され、安定的な食糧の確保、農村活性化や世界の貴重な農地資源の保全などに農業が果たしている特別な役割は完全に無視されている。ドーハ・ラウンド交渉は「開発ラウンド」であり「市場アクセスラウンド」ではないという基本に立ち返るべき。

国際的に貿易される農産物は、全世界の農業生産のわずか1割で、幅広く重要な農業の役割を損ねるような貿易ルールはナンセンス。悪い合意ならば、合意しないほうがよい。

WTOにおける公平で公正な成果を要求する声をあげるよう、全世界の数百万の農業者と家族に対し呼びかけるもの。

- ・ドーハ交渉は、バランスがとれ、公平で、多様な農業の共存を確保するものでなくてはならない。
- ・全てのWTO加盟国は、十分な国内生産を維持し、食料安全保障を確立する権利を有する。
- ・全てのWTO加盟国は、食料安全保障、食品安全性、環境、農村社会、動物愛護に関する国民の懸念など非貿易的関心事項を満足させる権利がある。
- ・上限関税は受け入れられない。
- ・各国がそれぞれ適切な数の重要品目や特別品目を指定できるようにするとともに、十分な柔軟性が与えられなくてはならない。

※アジア・アフリカ・アメリカ・ヨーロッパの54カ国の農業団体が署名。
※共同宣言本文は、全中ホームページ（<http://www.zenchu-ja.or.jp>）をご参照ください。

※全中ホームページ「WTO・EPA関係」内でもご覧いただけます。アドレスは<http://www.zenchu-ja.or.jp>



月形町南瓜生産組合 設立10周年記念祝賀会

十一月十六日登別グランドホテルに於いて、月形町南瓜生産組合設立10周年記念祝賀会が、南瓜生産者、家族や来賓多数を集め行われました。澤田南瓜生産組合長の開会の挨拶では、「この十年間、皆さんと関係機関それぞれの努力と協力があったからこそこの日を迎える事ができた」と苦勞に対するねぎらいの言葉と感謝の辞を述べていました。続いて、櫻庭月形町長、柴田JA組合長より来賓祝辞をいただいた後、各関係市場等へ感謝状が贈られました。

南瓜生産組合は、平成十年四月に二十五戸の組合員で設立し、平成十六年二月には、YES! Cleanを取得しており、現在六十三戸（約六四ha）の生産者で構成をしております。



JA月形町青年部 活動実績発表会で熱弁揮う



月形トマト研究会は、十一月二十九日に平成十九年度の出荷反省会を行いました。黒宮会長は冒頭の挨拶で、出荷量が前年より伸びており、生産者や関係各位のご尽力によるもの。今後も高品質なトマト生産を行いたいと次年度への意欲を話しました。

JA空知青年部連合会が主催する「平成十九年度 空知管内JA青年部活動実績発表大会」が十一月二十一日栗山町において開催されJA月形町青年部が出場しました。JA月形町青年部は「活気ある青年部を取り戻せ！」と題し、「マンネリ化した活動を見直し、児童会館との種刈り体験や農薬容器の回収事業を新たに組み込んだ事で部員に活気が出た」と取り組み内容を紹介、最優秀賞は逃しましたが優秀賞を受賞しました。この発表は、パソコンを用いて映像やグラフ等に合わせ各単組の取組活動を十五分以内で発表するものであり、JA月形町青年部は、弁士に石森誠副部長、パソコン操者に相田晶仁副部長を選出し大会に臨みました。

生産組合出荷反省会
月形花き生産組合は、十一月十五日に平成十九年度の出荷反省会を行いました。金山組合長は、前進出荷や生産コスト増加により販売額は伸び悩んだが、出荷量が増えた事は評価できるとし、次年度は、PR活動やフェアを積極的に進めたいと話しました。



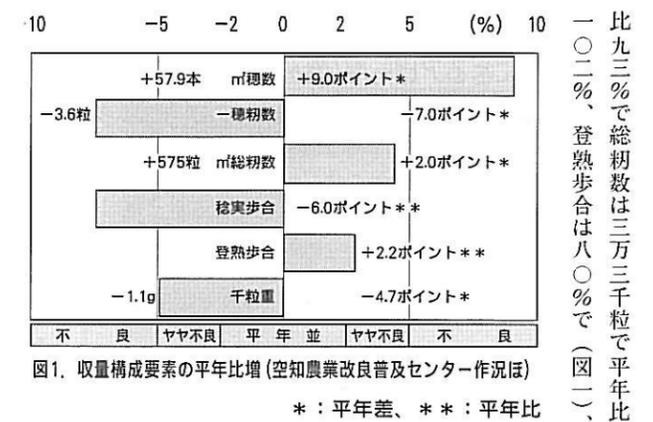
水稻

一、気象経過と生育
 (一) 融雪から育苗
 十九年は積雪が少なく融雪も順調だったため、融雪期は平年より三日早い四月七日となりました。耕起作業は平年より二日早い四月二十八日から始まり、最盛期五月五日(平年並)、終わりが十日(平年並)で、ほ場は良く乾燥していました。は種始は平年より一日早い四月十六日、は種期は二十日(同日早)、は種終は二十五日(同日早)になりました。
 は種後は低温傾向にはありましたが日照時間が多かったため、ハウス内の温度管理が難しい年でした。四月二十六日に芽期を迎え(平年並)、出芽の揃いは平年並でした。

出芽期以降も低温傾向で、育苗後半も高温の日が少なかつたため草丈が平年よりやや短くなりました。移植時の苗質では、乾物重が平年をやや上回り、草丈に対する乾物重を示す充実度は、平年比一二%、「やや良」となりました。
 (二) 移植から幼穂形成期
 移植始は五月十九日(同日早)で、移植期二四日(平年並)、移植終二十九日(平年並)と平年並のペースで進みました。移植期間の気温では、十九日と二十日が低温でしたが、二十一日からは回復しました。風は二十四日と二十五日以外は概して強かつたため一部で植え傷みが見られましたが、活着期は平年並の三十日、分けつ始は六月八日(同日早)でした。六月は気温が総じて高く日照時間も四

半旬まで平年より多かつたので、生育は平年を大きく上回りました。七月一日現在で茎数が平年比一二三%、草丈は一二%、葉数では〇・七枚平年を上回っていました。
 一方、降水量は六月三半旬に四〇のまとまった降雨があつた以外は既して少なく、三半旬を除くと平年の二三%に留まっています。降水量の不足から用水の節水が行われて水の入れ換えが難しくなり一部で土壌還元による生育停滞が見られましたが、総じて生育は順調に進み、幼穂形成期は六月二十九日(同日早)となりました。
 七月に入ると気温が低下し、一―二日は最低気温が十℃を下回る地域もありました。七月はほぼ全期間で気温が低く、一半旬に続いて冷害危険期にあたる三―四半旬の最高気温は二十℃前後、最低気温は十二―十三℃で推移し、不稔の発生が心配されました。止葉期は七月十六日(同日早)で、本年の冷害危険期は平年より二―三日長くなりました。
 (三) 出穂から成熟
 出穂が始まつてからも低温傾向は続き、出穂始は七月二十四日(同日早)、出穂期は七月二十七日(同日早)、出穂揃は八月一日(同日早)と生育は減速傾向にありました。七月十八―三十一日まで最高気温が二十四℃を四日連続で下回り、低温条件での開花となりました。七月からの低温の影響で不稔歩合は約一五%(同八%)と多くなりました。八月二半旬からは気温が上昇して三十℃前後の

日が続き、四半旬以外は平年より高く経過しました。一―二半旬の日照時間は平年の三十五%しかなくつたため登熟は緩慢でしたが、その後の高温・多照により登熟は順調となりました。降水量は三半旬から少なくなり、用水の通水期間が終了する六半旬の頃にはほとんど降雨が無く、土壌水分が不足するほ場が見られました。
 九月になつても気温は平年よりやや高く、降水量は二半旬から平年より多くなりました。七月の低温で粉が小さく割れ初は多い傾向にありました。
 (四) 成熟・収穫
 十九年は出穂の早かつた親穂に不稔が多く、遅く出穂した穂は高温条件で不稔は少なかつたようです。成熟期は九月十三日(同日早)となりましたが、断続的に降雨が続いたので収穫作業が遅れ、収穫始十四日(同日早)、収穫期二十一日(同日早)でした。後半は作業は急速に進み、収穫終は二十六日(同日早)となりました。収穫作業が急速に進んだ理由は、天候の回復、高温で登熟が進み青未熟粒が少なく立毛中の水分が低下したこと、収量が全体的に平年をやや下回ったことによります。
 外観品質は平年並でしたが、精米蛋白質はやや高めで、収穫遅れの薄茶米や褐変穂による着色のほか、一部でカメムシによる着色が見られました。カメムシの発生量は地域により差はありますが、平年並からやや少ない程度でした。mあたり穂数は平年比一〇九%、一穂粒数は平年



比九三%で総粒数は三万三千粒で平年比一〇二%、登熟歩合は八〇%で(図一)、* : 年差、** : 年比

置前に一時保管する場合は、ビニールなどで覆い、土の乾燥を防ぎましょう。苗箱設置後に被覆するシルバークロップは劣化するなど高温になるなど性能が低下するので、三年を目安に交換してください。早生品種の早期異常出穂を避けるため、育苗後半(二・五葉期以降)では二十五℃以上(十八―二十℃程度が最適)の高温管理を避けましょう。
 (三) 施肥は初期生育重視で
 側条施肥を組み合わせ、無理な多肥や施肥ムラを避けましょう。多肥は低温で不稔が多くなります。
 (四) 細かな水管理と深水できる畦
 分けつに適した日中二十五―三十℃の水温確保のために入水は夜間とし、天気の良い日は浅水・止め水をしましょう。前歴期間や冷害危険期の低温を乗り切るために必要な二十cmの水深が確保できるように、畦の補修や整備を計画的に進めましょう。
 (五) 発生に依じた病害虫防除を
 本年、いもち病が発生したほ場では移植後の早い段階からほ場を見回り、発生に注意してください。カメムシは基幹防除後も気温が高く経過した場合に追加防除が必要になりますので、予察情報を確認してください。
 (六) 登熟期間の土壌水分を確保
 登熟後半は玄米品質を低下させない目的で水分を確保します。最低でも出穂後二十五日ころまでは落水せず土壌水分を確保しましょう。

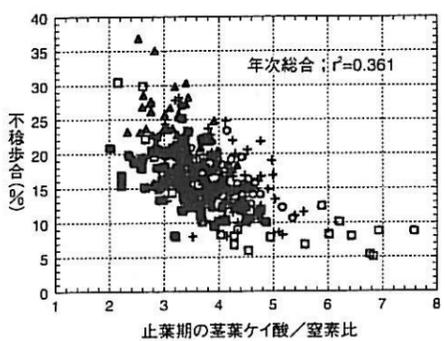


図 止葉期の茎葉ケイ酸/窒素比と不稔 (1999 上川農試)

畑作

◆秋まき小麦
 一、生育経過
 昨年九月のは種作業は好天に恵まれ、は種期で平年より二日早く、は種終りは平年より六日早く終了しました。秋の気温も平年並みに推移したこと、越冬前茎数は一六一五本/m²と平年の一四三%で越冬を迎えました。融雪期は三日早く、雪腐病の発生も少なかつたことから越冬茎率は高く、起生期の茎数は一四五七本/m²と平年の一三五%となりました。
 その後、六月初旬まではほぼ平年並みの気温で経過しました

(七) ケイ酸資材の施用
 ケイ酸の吸収は耐冷性を高める効果があります。ケイ酸資材の基肥施用や追肥をしましょう。
 出穂期は平年並みに迎え、開花期の好天により、受精・稔実も順調に経過し、一穂粒数の増加につながりました。開花後は高温・少雨の影響で登熟が進み、成熟期は平年より三日早く、粒重の低下が懸念されました。しかし、七月に入り、適度な降雨と低温により、千粒重は三八・〇gと平年の九八%に留まり、穂発芽については、収穫時期に降雨がなかつたことから、発生は見られませんでした。病害虫の発生は、うどんこ病、赤さび病が平年より早めの発生でしたが、適正防除により発生を抑えることができました。赤かび病も、降雨が少なかつたことと、適期防除により発生がなくなりました。しかし、立枯病の発生が見られ、収量・品質に影響を及ぼしたほ場も見られました。

◆春まき小麦
 一、生育経過
 は種作業は、融雪が早かつたこともあり平年より七日早く終了し、その後も順調に生育したため、出穂期も平年より七日早くなりました。近年作付けの増えている初冬まき栽培では、越冬茎率は高く、順調に生育し、出穂期は春まきに比べ六日早く迎えました。
 収穫は、成熟期の早かつた初冬まきで七月二十九日から始まり、好天により順調に収穫することができました。しかし、春まきでは収穫時期に断続的な降雨があり、一部で穂発芽の発生も見られました。赤かび病の発生は、降雨が少なかつたことと、防除の徹底により、ほとんど見られませんでした。
 二、反省
 今後も赤かび病防除の徹底と、秋まき小麦同様、輪作や緑肥の導入、低pHの改良と雑草対策の徹底を図りましょう。

二、反省
 近年、立枯病の発生が増える傾向にあります。田畑輪換も含めた輪作体系や緑肥の導入を検討するとともに、イネ科雑草対策の徹底を実施しましょう。
 また、春先に低pHによる小麦の黄化症状も見られており、土壌診断により、適正な土壌改良を実施するとともに、透排水の改善も併せて実施し地力の増進を図りましょう。

登熟後半は玄米品質を低下させない目的で水分を確保します。最低でも出穂後二十五日ころまでは落水せず土壌水分を確保しましょう。

二日早く、は種終りは平年より六日早く終了しました。秋の気温も平年並みに推移したこと、越冬前茎数は一六一五本/m²と平年の一四三%で越冬を迎えました。融雪期は三日早く、雪腐病の発生も少なかつたことから越冬茎率は高く、起生期の茎数は一四五七本/m²と平年の一三五%となりました。
 その後、六月初旬まではほぼ平年並みの気温で経過しました

表1. 秋まき小麦作業期と生育期

	本年	平年	遅速
は種始	9月11日	9月9日	-2
は種期	9月17日	9月19日	+2
は種終	9月21日	9月27日	+6
出芽期	9月24日	9月26日	+2
起生期	4月9日	4月11日	+2
幼形期	5月2日	5月3日	+1
止葉期	5月26日	5月26日	±0
出穂期	6月4日	6月5日	+1
乳熟期	6月26日	6月28日	+2
成熟期	7月13日	7月16日	+3
収穫始	7月18日	7月20日	+2
収穫期	7月24日	7月23日	-1
収穫終	7月26日	7月26日	±0

二、反省
 今後も赤かび病防除の徹底と、秋まき小麦同様、輪作や緑肥の導入、低pHの改良と雑草対策の徹底を図りましょう。

◆大豆

一、生育経過
 は種期は平年より一日遅く、その後の少雨で出芽は平年より三日遅れとなりました。特に五月下旬には種したほ場では、ほ場の乾燥により出芽のばらつきが目立ちました。出芽後は気温が平年より高く経過したため、生育は回復しました。六月中旬からの高温により生育はさらに進み、開花期は平年より六日早まりました。その後、七月中旬の低温で生育は一時停滞しましたが、着莢数は六二七個/m²と平年より二二%多くなりました。

九月の降水量が平年より多かったことと最低気温が高かったことにより落葉と登熟が抑制され、成熟期は平年並となりました。十月も曇雨天日が多く、茎の木質化も遅れ茎水分が下がらず、収穫終りは平年より六日遅くなりました。

表2. 大豆作業期と生育節

	本 年	平 年	遅速
は種始	5月8日	5月8日	±0
は種期	5月15日	5月14日	-1
は種終	5月30日	5月22日	-8
出芽期	5月29日	5月26日	-3
開花始	7月10日	7月15日	+5
開花期	7月12日	7月18日	+6
成熟期	9月26日	9月26日	±0
収穫始	10月4日	10月5日	+1
収穫期	10月12日	10月11日	-1
収穫終	10月24日	10月18日	-6

病害虫の発生は、種子塗沫薬剤の使用により、アブラムシによる、わい化病の発生は少なくなりましたが、ツメクサガ

等の食葉鱗翅目幼虫、さらにはマメシクイガの発生が多く見られ一部で食害粒が見られました。べと病は、平年より早く発生しましたが、防除が適正に行われたため減収となるようなほ場は見られませんでした。また、裂皮や裂開粒が一部品種で見られ品質に影響を及ぼしました。

◆小豆

一、生育経過
 は種作業は、平年並に終了しましたが、は種後の少雨により出芽期は四日遅れ、出芽のばらつきも見られました。

しかし、出芽後は高温で推移したため生育は回復し開花は平年より二日早くなりました。八月の高温により生育が旺盛となり変化傾向が見られましたが、着莢数は四四一個/m²と平年より二九%多くなりました。また、小豆には目立った病害の発生は見られませんでした。

表3. 小豆作業期と生育期節

	本 年	平 年	遅速
は種始	5月25日	5月25日	±0
は種期	5月30日	5月31日	+1
は種終	6月4日	6月4日	±0
出芽期	6月16日	6月12日	-4
開花始	7月22日	7月24日	+2
開花期	7月24日	7月26日	+2
成熟期	9月5日	9月7日	+2
収穫始	9月11日	9月11日	±0
収穫期	9月19日	9月19日	±0
収穫終	10月8日	9月25日	-13

収穫作業は、大豆と同様に落葉が非常に悪く、平年より十三日遅く終了しました。

二、豆類の反省

本年も一部のほ場で茎疫病発生が見られ、近年増える傾向にあるので、輪作やほ場観察による適期防除、さらには明暗渠やサブソイラー等による排水対策に心がけましょう。

また、マメシクイガ等による子実食害が見られていますので、ほ場観察の上、適期防除に努めましょう。

野菜

◆たまねぎ

一、生育経過
 移植作業は、平年より二三日早く始まり、作業も順調に進んだため、五月上旬には殆どが終了しました。移植後は、適度な降雨があり活着及び初期生育は良好に進みました。

極早生・早生品種は、初期生育は順調でありましたが、六月中旬からの少雨により、生育が停滞し球肥大も抑制され全体的に小玉傾向となりました。

また、八月十三日～十五日の猛暑により、日焼けによる障害球が発生するなど、規格内収量は少なくなりました。中・晩生品種も、六月中旬～七月中旬の少雨の影響で生育が停滞し、葉数が少ないまま平年より二～三日早く、倒伏期となりました。倒伏後は、八月中旬の猛暑により葉茎が一気に枯れ上り、枯葉期も平年より早まりました。

最終的な球肥大は、ほぼ平年並となりましたが、総収量としては、平年作をやや下回る結果となりました。

品質は、長玉や変形が全体的に多く、規格内の歩留りが悪くなりました。また、乾腐病による腐敗球の発生など、ほ場間差が例年になく大きい結果となりました。

二、今後の取組み方向

安定生産に向けては、次の技術対策が必要で

- ① 堆肥の施用や緑肥導入による地力対策
- ② 心土破碎等による土壌の物理性改善と深耕による作土層の拡大
- ③ 土壌診断結果に基づく、土壌改良資材の適正施用
- ④ 輪作による乾腐病の軽減
- ⑤ 発生に応じた病害虫防除
- ⑥ 減農薬栽培の取組み拡大

◆メロン

一、生育経過

半促成作型では、定植期の四月中旬が低温傾向でしたが、定植後の四月下旬～五月上旬の気温回復により、初期生育は良好となりました。着果期も良好で、平年に経過したため、着果も良好でした。六月に入り高温で推移し生育が早まり、果実肥大も良好となりました。ネット形成以降は、低温に経過したため、熟期は遅れましたが、収穫前の草勢の低下などは見られず、品質は良好となりました。

二、アブラムシの発生

六月には、アブラムシの発生が非常に多く、一部ではウイルス株の発生も見られました。

これは、六月の高温によるアブラムシの発生と定植時に施用した殺虫剤の効果が低下した時期と重なり、被害が多くなつたと考えられます。対応策としては、発生をよく観察し(特につる先)発生初期に防除する必要があります。

三、えそ斑点病の発生拡大

これまでも、えそ斑点病の発生がありましたが、多くは葉の大病斑の発生であり、収量品質には影響のない範囲でした。しかし、本年は茎のえそ病斑が発生したほ場が見られました。これは、収穫の二週間前から萎ちよう症状が現れ、糖度低下や発生が激しい場合は収穫まで至らなくなりました。

対応策は、抵抗性台木の利用が主な方法です。抵抗性台木の利用は、つる割れ病レース1・2等の土壌病害が併発しているほ場では両方の抵抗性を持つ台木の選択が必要となります。

◆トマト

一、生育経過

春先の好天により、定植から第一花房開花までは順調に生育しました。しかし第一果房収穫直前になると、尻腐れ果の発生やアザミウマ類による被害が発生し、収穫に影響が出ました。

七月に入ると草勢の低下や低温の影響により第三～五花房の落花が目立ちまし

た。八月中旬の猛暑により、マルハナバチの活動が低下し、結実の少ない株も目立ちました。

全体としては、収穫に大きな影響はなく、前年並の収穫量になりました。

二、今後の取組み方向

- ① 定植前の土壌診断の実施と適正な施肥対応
- ② 健全な苗を育てるための適正な温度・水管理の徹底
- ③ 草勢に応じた追肥と水管理の徹底
- ④ 夏期間のハウス内高温対策の検討
- ⑤ 灰色かび病の発生を軽減するために、開花後の花かす除去や葉先枯れの摘葉処理と下葉処理など耕種的防除の実施

◆アスパラガス

一、生育経過

① ハウス促成栽培
 春芽の初期の萌芽は、順調に推移しましたが、七月上旬の夏芽の萌芽が鈍く、やや遅ることになりました。その後は回復し、収穫は順調に経過しました。

② 露地栽培

萌芽始めは順調でしたが、六月の少雨により萌芽が鈍り、収量が低下しました。その後も、少雨の影響により、立茎枝が十分に生長せず、夏芽の萌芽が遅れました。このことから、露地栽培の夏芽はやや低収となりました。病害虫は、ハウス、露地栽培とも夏期にアザミウマ類の発生が多くなりました。また、一部でカメムシの発生も見られま

花き

◆夏秋カーネーション

主な品目毎の作柄と反省
 四月中旬がやや低温であったものの定植後の活着と初期生育は良好でした。

六月の高温により生育は早まり、この高温が早期抽台の原因の一つとなりました。しかし、七月中旬の低温により生育は緩慢となりましたが、一転して八月には高温に転じ前進開花の要因になりました。

病害虫は、六月の高温乾燥によりハダニ類の発生が多く、八月にはアザミウマ類の発生が多かったのが特徴です。

ハダニ類の防除は高温乾燥傾向の気候で推移したときに、予防散布に心がけ、発生した場合は殺卵剤・殺成虫剤の併用により防除します。

アザミウマ類の防除は、例年七月中旬から多発生となるので、七月上旬からの予防散布を行います。新葉部の葉と葉の間を観察すると発生初期が確認しやすいです。

◆ゆり類

六～七月定植の秋切りの作型では、八月が連日の真夏になるなど高温によりブラッシングの発生が多かったのが特徴でした。

ブラッシングの防止には、複数の技術を用いた対策が必要です。そのためには以下の方法があります。

- ① 上根の発育を良好にするためのプレ・ルーティング
- ② 土壌水分を一定に維持するための多回数灌水
- ③ 地温低下を目的とした稲わらマルチの被覆
- ④ 遮光ネットの被覆(四日防止の遮光ネット被覆も)
- ⑤ 天窓などによるハウス上部の高温対策

◆デルフィニウム

立枯病(リゾクトニア菌)の発生が年々増加しており、本年も連作ほ場で被害が拡大しました。高温による夏枯れと立枯病は区別しづらいますが、立枯病は地際部が黒色状の腐れとくびれの状態になるので判断がつかずります。

- 防除方法は以下のとおりです。
- ① 過去に立枯病の発生があったほ場では土壌消毒を実施
 - ② 定植時に農薬の土壌灌注
 - ③ 腐敗性の強い病害なので、未熟有機物は投入しない
 - ④ 病害株や茎葉の残さをすき込まない

こんにちは農民連盟-11月-

- 3日・書記長・次長研修会
書記長・書記次長
- 5日・四役会議
四役
- 9日・税担当者会議
副委員長・書記次長
- 11日・南ブロック委員長・副委員長研修会
委員長・副委員長
- 21日・小平忠正連合後援会南空知ブロック代表者会議
金沢会長
・農業者戸別所得補償法案説明会
副委員長・書記長
- 26日・事務所駐在
書記次長
- 27日・年末調整等説明会
- 28日・中間監査・常任委員会
常任委員
- 30日・全道委員長会議
委員長

ホクレン
♪スタンド情報♪

ハイオク	165	円/ℓ(税込み)
レギュラー	155	円/ℓ(税込み)
軽油	135	円/ℓ(税込み)
灯油	99	円/ℓ(税込み)

(12月20日現在)

農協文庫 12月号 新刊のお知らせ

今月の農協文庫の新刊をお知らせします。

買取り・貸出しを行っていますので、詳しくは、営農推進課まで連絡下さい。

手づくりしたい ほかほか中華まん

茂手木 章 著

点心名人が教える本格中華まんのレシピ集。おいしさの決め手は、イースト菌で発酵させたフカフカの生地と、ベーキングパウダーを使ったしっとり生地。定番からアレンジしたものまで、ていねいに解説。

伝統の味から簡単おもてなし料理まで おせち基本帳

為後 喜光 著

心を込めて手作りたいおせち料理。素材の持ち味を生かす伝統のおせちや、和洋中のおもてなしおせち、市販品にひと手間加える簡単おせちを紹介。段取りよく作れて、豊富な組み合わせで豪華に仕上げられる。

市場主義時代を切り拓く 総合農協の経営戦略

田中久義 著

「市場原理主義」が台頭するなかで、共存共栄をめざす共同組合の進むべき道とは何か。海外の協同組合の合併、買収などの事例を参考に、総合農協としての日本型農協の経営戦略を探る。総合農協批判への反論の書。

カツ代のまかないレシピ

小林カツ代キッチンスタジオ 編

小林カツ代キッチンスタジオのまかないごはんを初公開。安い素材で、3品30分以内、昨日と同じ味にしないなどといった「まかないごはん十一か条」にしたがって調理。秘伝調味料や特製おやつなども紹介。

決断の瞬間 プロフェッショナルが語るリーダーの条件

大西 展子 著

誰もが思い悩む人生の決断。羽生善治、柳本晶一、蛭川幸雄、中村修二ら各界の第一線で活躍する16名のプロフェッショナルたちは、決断の瞬間、何を考えたのか。人生の指針やヒントとなる経験談が詰まった一冊。

子どもに伝えたい日本人のしきたり

三橋 健 著

季節ごとの行事や日々の暮らしにおけるしきたりは、子どもたちに伝えていきたい日本の美しい文化。そのために知っておきたい、行事やしきたりのたいせつな意味や由来などをイラストや写真でわかりやすく解説します。

理事会だより

第十回理事会議案

(十一月二十二日開催)

- 議案第一号 平成二十年度 特別対策組合員の対応方針(案)について
- 議案第二号 個人情報取扱規定の一部改正について
- 議案第三号 出資金持分譲渡の承認について
- 議案第四号 平成十九年度産地づくり交付金・JA立替払いについて
- 報告第一号 平成十九年十月末現在組合員の動向について
- 報告第二号 平成十九年十月末現在財務状況について
- 報告第三号 平成十九年十月末現在事業計画・実績対比について
- 報告第四号 平成十九年十月末現在子会社(エーコープつきがた)の財務状況について
- 報告第五号 貸出業務事務手続(貸出要領)の一部改正について
- 報告第六号 平成二十年度新採用職員の内定について
- 報告第七号 内部審査結果について
- 報告第八号 JAバンク基本方針に基づく平成一九年度上半期経営状況の報告について
- 報告第九号 平成十九年度第三回(十一月末)購買品現品棚卸の実施について
- 報告第十号 平成十九年度JA月形町役員道外視察研修収支決算報告について
- 報告第十一号 平成十九年度産米「こめ工房」集荷・調整及び検査入庫状況について

キャッシュカードの暗証番号を「生年月日」「電話番号」等に指定している場合は、速やかに変更のお手続を!

昨今、偽造カードや盗難カードを使用したATMでの不正な引出し事件が発生していますので、キャッシュカードを安全にご利用いただくために、以下の点にご注意ください。

○暗証番号は、生年月日、電話番号、住所の番地、自動車のナンバーなどを避け、他人に類推されにくいものをご使用ください。類推されやすい暗証番号をご使用の場合は、すみやかに変更してください。なお、暗証番号は定期的に変更されることをお勧めいたします。

※暗証番号の変更は当JAの窓口またはATMでお手続きすることができます。ご不明な点があれば当JA窓口までお問い合わせください。

○暗証番号は他人に知られないよう十分にご注意ください。また、ATMをご利用の際は、後ろからのぞき見されないようご注意ください。もし、不審だと感じられた場合は、すみやかに暗証番号を変更してください。

○JA職員などが店舗外や電話などで暗証番号をお尋ねすることはありません。不審だと感じられた場合には、ただちにお取引のJAにご照会ください。

○通帳のご記帳はできるだけ頻繁に行い、不審な取引がないかご確認ください。

○ロッカー、貴重品ボックス、携帯電話など金融機関のお取引以外で暗証番号を使用する時は、キャッシュカードと同じ番号を使用しないでください。

○キャッシュカードも通帳や印鑑と同様、大切なものですので厳重な管理をお願いします。長時間お手元からお離しになられる際は十分にご注意願います。

◆◆ご不明な点は、当JAにお問い合わせください。◆◆

JA月形町 貯金窓口

電話 53-3422

平成19年を

振り返って

8月 誕生日にカーネーションを…



北海道花き生産連合会カーネーション部会現地研修会に合わせて月形温泉「ゆりかご」内にカーネーションを展示しました。

7月 つきがた夏まつり



七月二十八日・二十九日の二日間にわたり「第二十四回つきがた夏まつり」が催され、農産物即売会等を行いました。

10月 農薬容器回収



J A青年部立会いのもと、農薬容器の回収を行いました。廃プラスチックの適正処理をお願いします。

9月 観賞用かぼちゃ出荷はじめました



共撰品として、観賞用かぼちゃの出荷がはじまりました。箱もオシャレになりました。

12月 農事組合長会議



平成十九年最後の農事組合長会議が開かれました。一年間御苦労さまでした。

11月 職員研修会行う



J A北海道中央会岩見沢支所、石崎支所長を講師に招き「独占禁止法」について学びました。

2月 J A女性部の各講習会



J A女性部が企画するアレンジフラワーなど講習会が開催されました。

1月 豊かな年にむけて(豊穰祈願式)



一月六日、J A月形町において平成十九年の豊穰祈願式が開催されました。

4月 J A第59回通常総会開催



平成十八年度の通常総会が開催され、提案された議案が原案通り可決されました。

3月 エコファーマーについて学ぶ



改良普及センター普及員の方を講師に招きエコファーマーについて研修を行いました。

6月 札幌栄西児童会館田植え



札幌市の栄西児童会館の敷地内に畳み一畳程の田んぼを作り、稲を児童と共に植えました。

5月 小学生へ苗のプレゼント



月形小学校へ、J Aより四リットのペットボトルを利用した観察用苗が、学習の為にプレゼントされました。今年で三年目の贈呈となりました。

… J A貯金からのお年玉…

平成20年の新春に、貯金をしませんか？ J A貯金では、1月4日を初貯金キャンペーンとして、入金していただきましたお客様へ、粗品を進呈いたします。(数量限定)

どうぞ、輝かしい新春をJ Aバンクと共に迎えてみてはいかがでしょうか。みなさまのご来店をお待ち申し上げます。

J A月形町金融部貯金共済課貯金 (電話53-3422番)



謹賀新年



本年も役職員一同よろしくお願ひ申し上げます

代表理事組合長

柴田 東出 幸男
石川 哲夫
本居 哲夫
土田 寿幸
明田 修一
山本 博幸
楠本 順一
与佐岡 彰登
宮島 将彰
村瀬 昇
金融部長 佐藤 良幸

〈金融部〉

融資課長(兼)融資係長 吉田 政明
融資係 横田 竜平
融資係(融資) 横山 朋枝
融資係(組勸) 坂本 恵
貯金共済課長(兼) 河原 芳一
貯金共済係長(貯金) 丸山 富雄
丸山 知恵美
橋本 梨絵
吉原 梨絵
戸田 侑斗
山崎 絵理

〈管理部〉

管理部長(兼)総務課長(兼) 西野 宏希
融資審査係長 小野 智子
総務係長 真野 真理子
総務係(庶務) 工藤 美雪
総務係(出納) 今野 芙美子
融資審査係 村上 雅樹
業務部長 高橋 博基
営業推進課長 佐藤 隆之
営業推進係長 宮崎 尚幸
営業推進係 堀 愉生江
農産販売課長 植松 彰
農産販売係長 竹内 滋

農産園芸係(花き)

稲垣 幸一
真保 佳幸
山岡 里美
太田 景子
辻 裕哉
吉谷 祐香
青柳 克彦
佐藤 英直
山田 和代
西 和然
佐々木 正美
松川 守
伊藤 圭二
山田 優弥

農協青年部

部長 渡邊 訓広
副部長 相田 晶仁
副部長 石森 誠
理事 黒宮 弘幸
理事 中村 貴広
理事 一柳 直之
代表監事 阿部 亨
監事 石川 照雄
参与 加藤 隆行

月形町農民連盟

委員長 佐藤 康直
副委員長 石川 純雄
書記長 津坂 佳史
書記次長 田島 豊
税対委員長 常本 勉
税対委員 河原 徹
農政委員 金山 仲吾
農政委員 直 浩亨
代表監事 柳 彰憲
監事 山田 巖
監事 瀬川 政典

月形花き生産組合

組合長 金山 均
副組合長 中條 敏幸
役員 直 浩亨
役員 宮下 勇作
役員 青柳 俊治
監事 渡邊 訓広
監事 高松 春夫
監事 青柳 忠信

月形町 南瓜生産組合

組合長 澤田 瞬一
副組合長 米林 信廣
役員 伊藤 格
役員 小野 栄治
役員(有フューチャー) 中村 勝則
監事 山際 栄二
監事 残間 清一

月形町酪農組合

組合長 斧田 定治
副組合長 久保 純一
監事 田卷 貴範

月形町 乳牛検定組合

組合長 斧田 定治
副組合長 田卷 貴範
監事 久保 純一

農協女性部

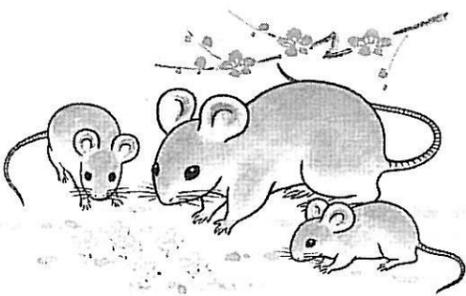
部長 大江 孝子
副部長 中條 明美
代表監事 五十嵐喜代子
監事 青柳 千恵

月形町 果菜生産出荷組合

組合長 植松 博幸
副組合長 池上 基
役員 小野 栄治
役員 西川 優
監事 滝沢 剛
監事 残間 清一
監事 内藤 康志

月形 トマト研究会

会長 黒宮 勝美
副会長 五十嵐俊雄
役員 石森 誠
監事 岩村 和男



年末・年始業務

	月 日	業 務	内 容
平成十九年度(年末)	12月29日(土)	一般業務 貯金店舗 ホクレン給油所	業務納め 午前8時30分～午前11時00分 休業 平常業務 午前8時00分～午後6時00分
	12月30日(日)	一般業務・貯金店舗 ホクレン給油所	休業 業務納め 午前8時00分～午後5時30分
	12月31日(月)	一般業務・貯金店舗 ホクレン給油所	休業 休業
平成二十年度(年始)	1月1日(火) ～4日(金)	一般業務	休業
	1月4日(金)	ホクレン給油所	営業 午前8時00分～午後5時00分
	5日(土)		休業
	1月4日(金)	貯金店舗	営業 窓口 午前9時00分～午後3時00分 ATM 午前9時00分～午後5時00分
	5日(土)		休業
	1月5日(土)	一般業務	業務始め 午前8時30分～午前10時00分
		豊稜祈願祭 役職員合同新年交礼会	午前10時00分 午前11時00分
1月6日(日)	一般業務・貯金店舗 ホクレン給油所	休業 営業 午前8時00分～午後5時30分	
1月7日(月)以降全業務平常営業			

エコープ営業時間

平成19年12月

31日(月) 業務納め
午前9時～午後5時

平成20年1月

1日(火) 休業

2日(水) 業務初め
午前10時～午後3時

3日(木)～4日(金) 休業

5日(土) 平常業務
午前9時～午後6時30分



エコープつきがた
初売り1月2日
午前10時～
午後3時